

Ⅱ 調査結果の概要

1 観光客の概況

(1) 総観光客数

① 平成23年の総観光客数

単位：万人，%

区分	平成23年	平成22年	対前年増減	対前年比
総観光客数	5,532	5,577	▲45	▲0.8

平成23年は、3月11日発生の東日本大震災直後に旅行の自粛ムードが高まったことから一旦は落ち込んだものの、その後は徐々に回復し、夏以降は平年並に推移した結果、総観光客数は5,532万人となり、平成22年と比べて45万人（0.8%）減少した。

主な減少要因としては、大河ドラマ「龍馬伝」ゆかりの地「鞆の浦」への観光客が、放送終了に伴い大幅に減少したこと、また、高速道路の土日・祝日上限千円や広島呉道路の無料化社会実験が6月に終了したことなどが挙げられる。

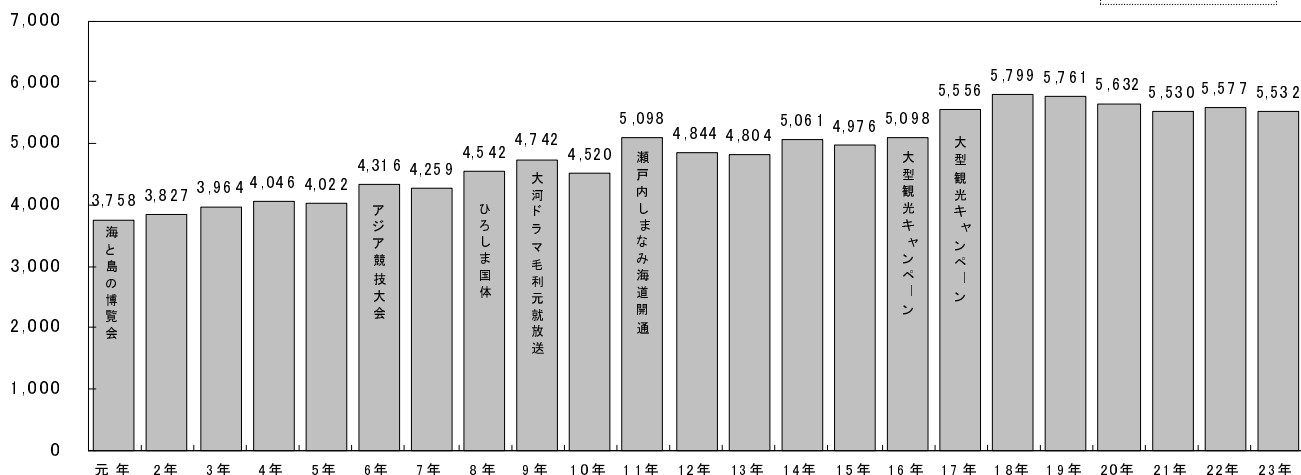
一方、主な増加要因としては、廿日市市の「宮島」で、8月に宮島水族館がリニューアルオープンしたこと、4月の広島中央フライトロード開通に伴い、周辺施設への来訪者が増加したことなどが挙げられる。

② 総観光客数の推移

本県の総観光客数は、平成元年以降ほぼ順調に推移し、「瀬戸内しまなみ海道」が開通した平成11年には、はじめて5,000万人を上回った。また、大型観光キャンペーンの効果もあり、平成16年から平成18年は、3年連続して過去最高を更新したものの、その後は伸び悩み、平成21年以降は、5,500万人台で推移している。

図1 総観光客数の推移

単位：万人



単位：万人，%

区分	元年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年
総観光客数	3,758	3,827	3,964	4,046	4,022	4,316	4,259	4,542	4,742	4,520	5,098	4,844	4,804	5,061	4,976	5,098	5,556	5,799	5,761	5,632	5,530	5,577	5,532
対前年比	13.2	1.8	3.6	2.1	▲0.6	7.3	▲1.3	6.7	4.4	▲4.7	12.8	▲5.0	▲0.8	5.4	▲1.7	2.5	9.0	4.4	▲0.7	▲2.2	▲1.8	0.8	▲0.8
元年基準の指数	100	101.8	105.5	107.7	107	114.8	113.3	120.9	126.2	120.3	135.6	128.9	127.8	134.7	132.4	135.7	147.8	154.3	153.3	149.9	147.2	148.4	147.2

(2) 市町・地区別観光客の状況

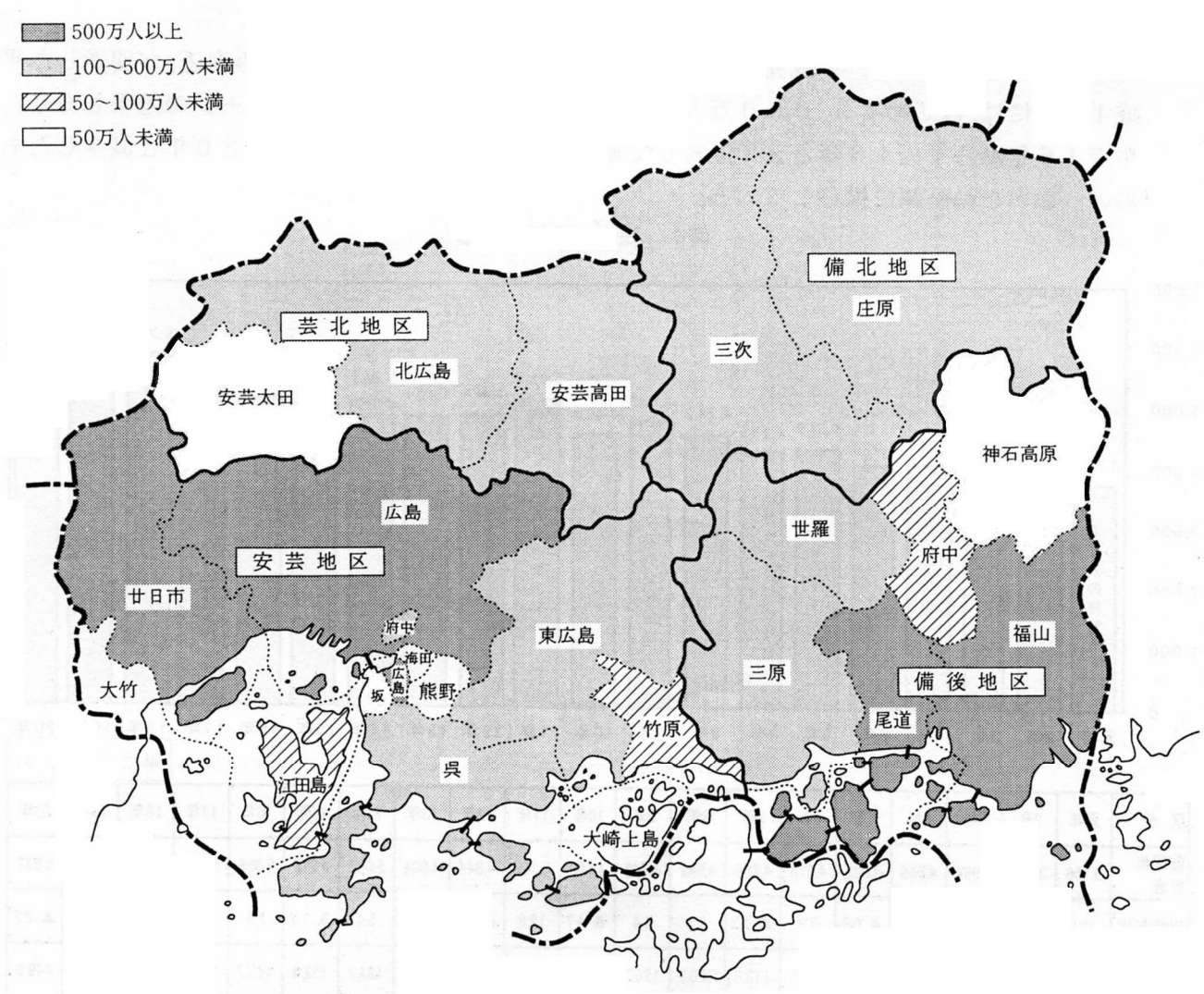
① 市町別総観光客数の状況

総観光客数	市町数	前年と比べて	
		増加した市町	減少した市町
500 万人以上	4 市	広島市, 尾道市, 廿日市市	福山市
100~500 万人未満	9 市町	北広島町, 三原市, 安芸高田市	呉市, 三次市, 東広島市, 庄原市, 世羅町, 府中町
50~100 万人未満	3 市	竹原市, 府中市,	江田島市
50 万人未満	7 市町	熊野町, 大崎上島町	安芸太田町, 神石高原町, 海田町, 坂町, 大竹市

総観光客数を市町別に見ると、広島市、福山市、尾道市、廿日市市などの瀬戸内海沿岸地域を中心に、総観光客数が多いことがわかる。

なお、前年に比べて総観光客数が増加した市町は10、減少した市町は13である。

図2 総観光客数の市町別状況



② 市町別総観光客数の順位（上位10位）

単位：千人，%

順位	市町名	平成23年	平成22年	対前年増減	対前年比	前年順位
1位	広島市	11,764	11,651	113	1.0	1位
2位	福山市	6,449	6,797	▲348	▲5.1	2位
3位	尾道市	6,223	6,180	43	0.7	3位
4位	廿日市市	5,993	5,816	177	3.0	4位
5位	呉市	3,971	4,205	▲234	▲5.6	5位
6位	三次市	2,734	2,761	▲27	▲1.0	6位
7位	東広島市	2,565	2,638	▲73	▲2.8	7位
8位	北広島町	2,500	2,466	34	1.4	8位
9位	三原市	2,361	2,197	164	7.5	10位
10位	庄原市	2,275	2,302	▲27	▲1.2	9位

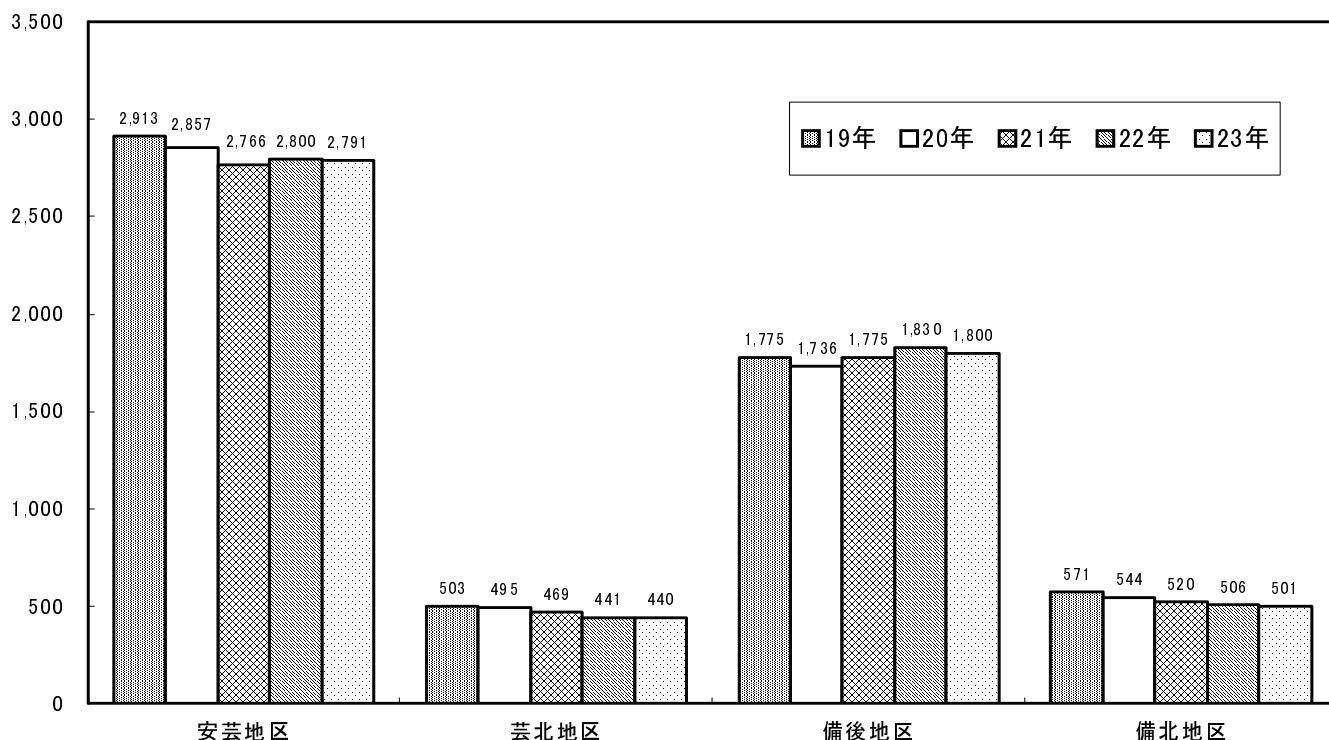
上位10市町の中では、広島市、尾道市、廿日市市、北広島町及び三原市が対前年比増となったが、福山市や呉市では5%を超える減少となっている。

③ 地区別総観光客数の状況

地区別では、いずれの地区においても前年と比べて減少している。全体的に減少傾向が見られる中、昨年大幅に増加した備後地区では30万人（▲1.6%）の減となったものの、前々年までの水準を上回っている。

図3 地区別総観光客数の状況

単位：万人



(3) 発地別観光客の状況

① 県内・県外観光客の状況

単位：万人，%

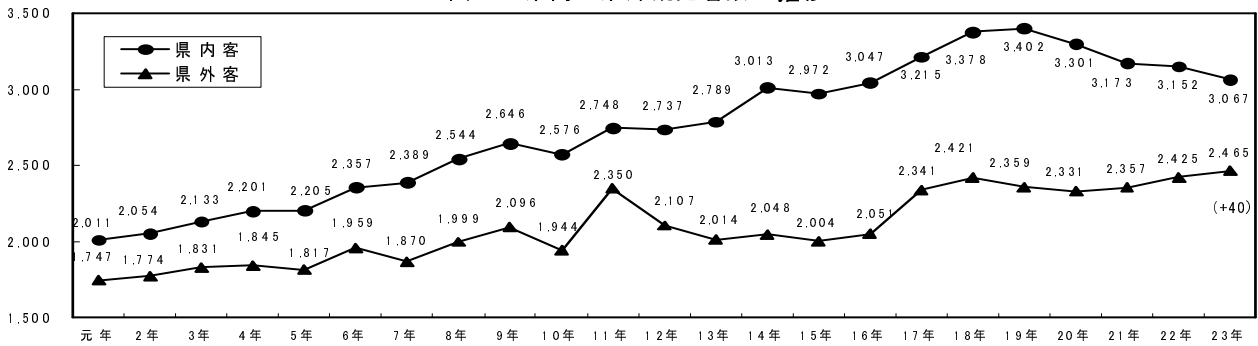
区分	平成23年	平成23年構成比	平成22年	対前年増減	対前年比
県内	3,067	55.4	3,152	▲85	▲2.7
県外	2,465	44.6	2,425	40	1.6

② 県内・県外観光客数の推移

県外観光客数は前年比40万人増の2,465万人となり、3年連続で増加し、過去最高を更新した。一方、県内観光客（地元観光客を含む）数は、4年連続で減少しているが、平成16年以降3,000万人台を維持している。

図4 県内・県外観光客数の推移

単位：万人

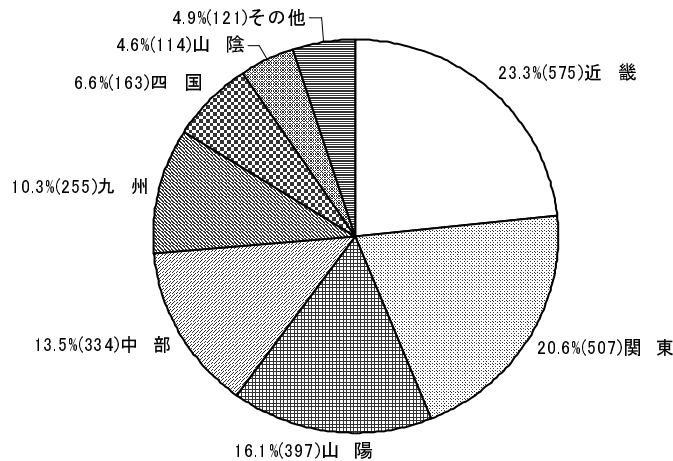


③ 県外観光客の発地別状況

発地別状況については、「近畿地方」と「関東地方」がそれぞれ500万人超で、この2地区の合計で県外観光客の半数近くを占めている。以下、「山陽地方」、「中部地方」、「九州地方」、「四国地方」、「山陰地方」の順になっている。

図5 発地別県外観光客数の割合

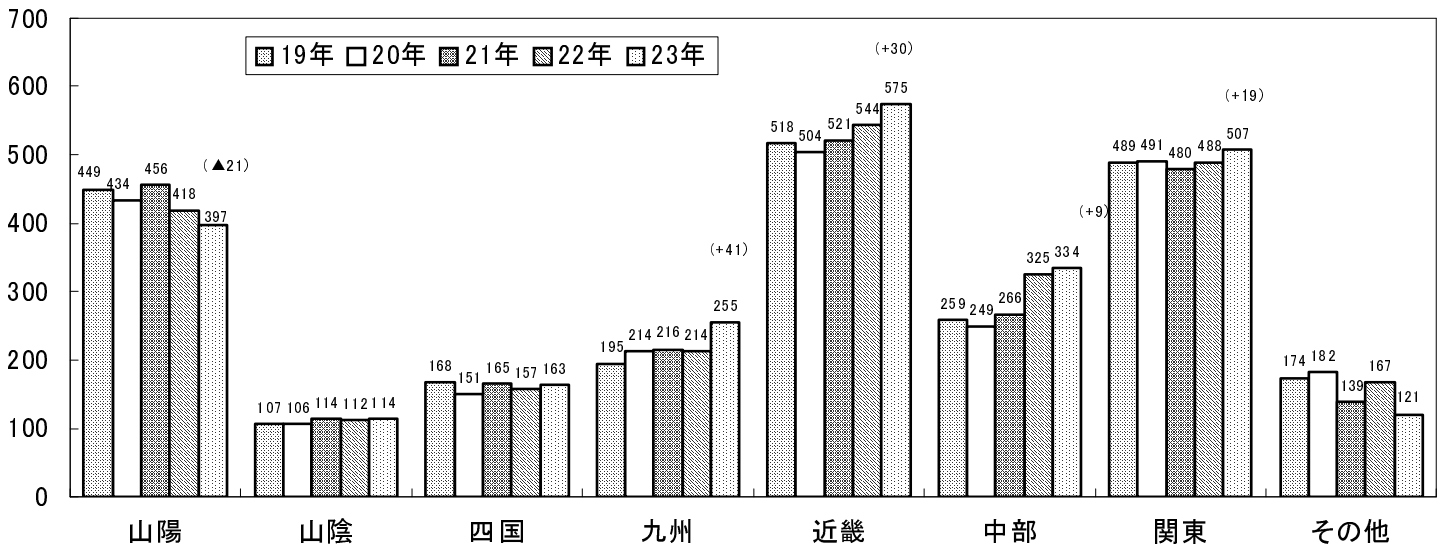
単位：万人



前年と比べた場合、山陽・九州新幹線直通の効果で「九州地方」から41万人増加したほか、「近畿地方」から30万人、「関東地方」から19万人の増加となっている。一方、「山陽地方」は21万人の減少となっている。

図6 発地別県外観光客の状況

単位：万人

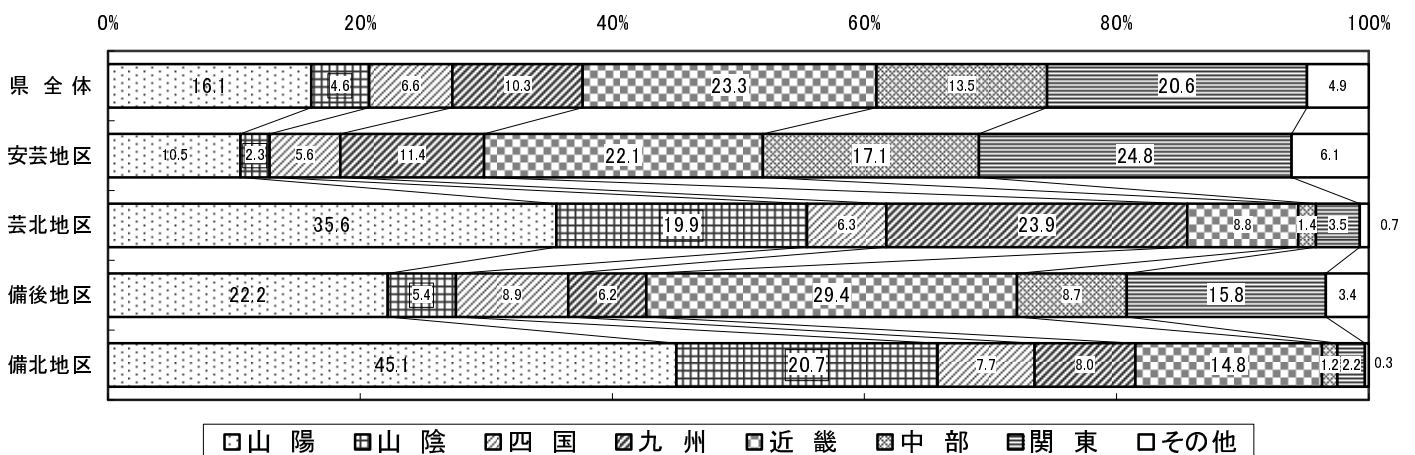


④ 地区別にみる発地別県外観光客の状況

安芸地区は「関東、近畿、中部地方」など大都市圏からの観光客が高い割合を占めている。また、芸北地区は「山陽、九州、山陰地方」から、備後地区は「近畿、山陽、関東地方」から、備北地区は「山陽、山陰、近畿地方」からの観光客が高い割合を占めている。

図7 県内各地区への県外観光客の発地別割合

単位：%

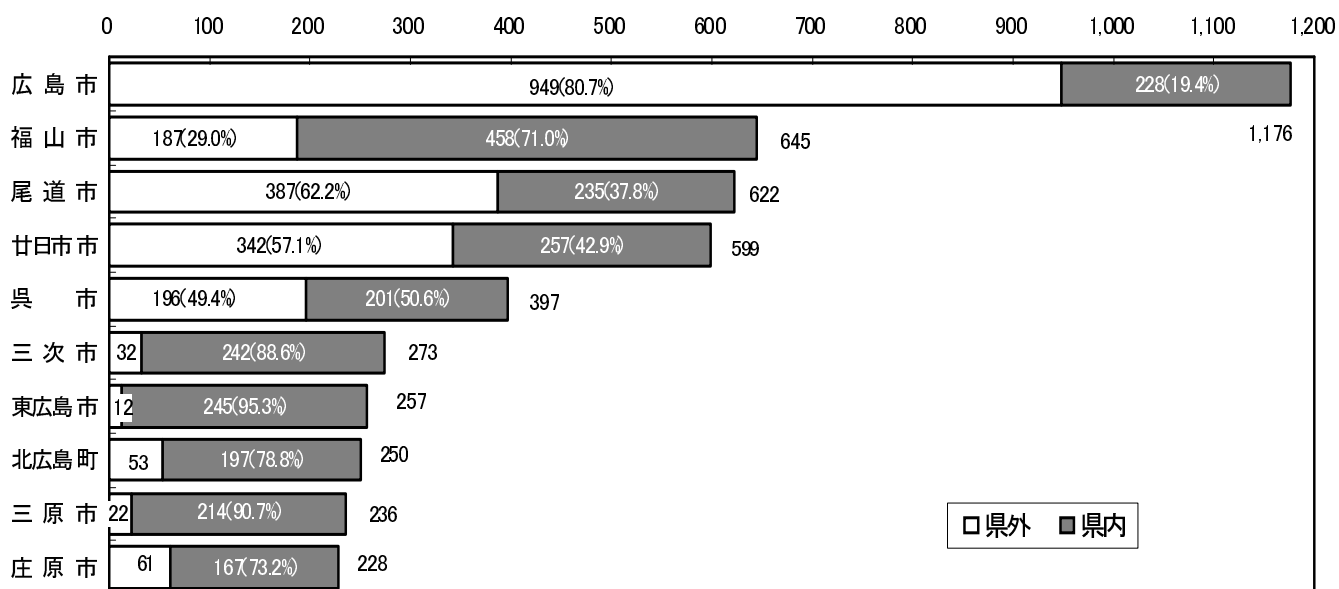


⑤ 市町別にみる県内・県外観光客の状況

観光客数の上位10市のうち、県外客の比率が県全体の平均44.6%を上回っているのは、広島市(80.7%)、尾道市(62.2%)、廿日市市(57.1%)、呉市(49.4%)の4市であった。

図8 市町別県内・県外別観光客数(上位10市町)

単位:万人

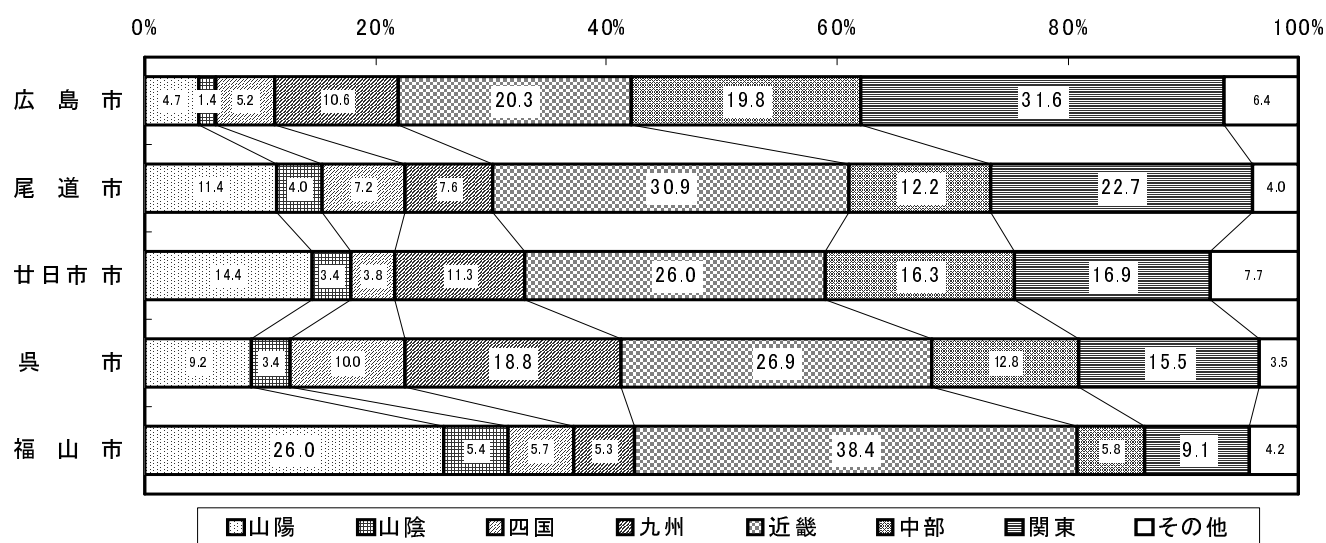


⑥ 市町別にみる県外観光客の発地別状況

県外からの観光客数が多い上位5市を見ると、広島市は「関東、近畿、中部地方」から、尾道市、廿日市市は「近畿、関東地方」から、福山市は「近畿、山陽地方」からの観光客が高い割合を占めている。

図9 市町別県外観光客の発地別割合(上位5市町)

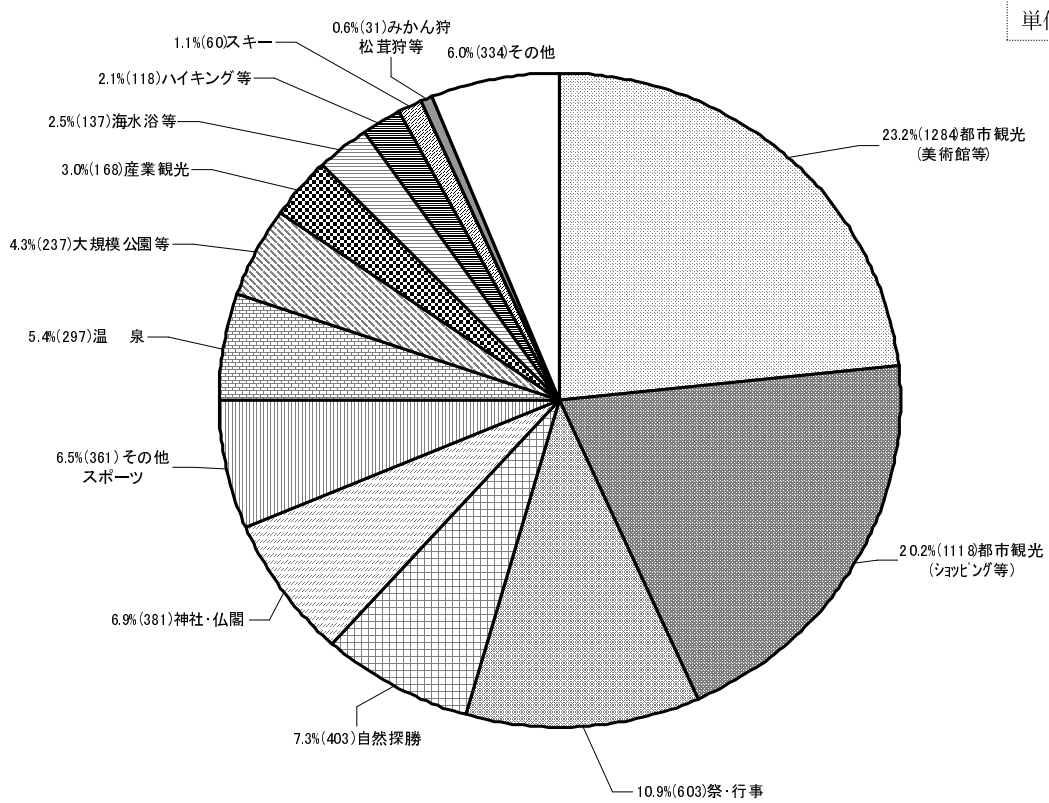
単位: %



(4) 目的別観光客の状況

目的別では、「都市観光」が43.4%と最も高く（うち「美術館等」が23.2%、「ショッピング等」が20.2%）、次いで「祭・行事」の10.9%、「自然探勝」の7.3%となっている。

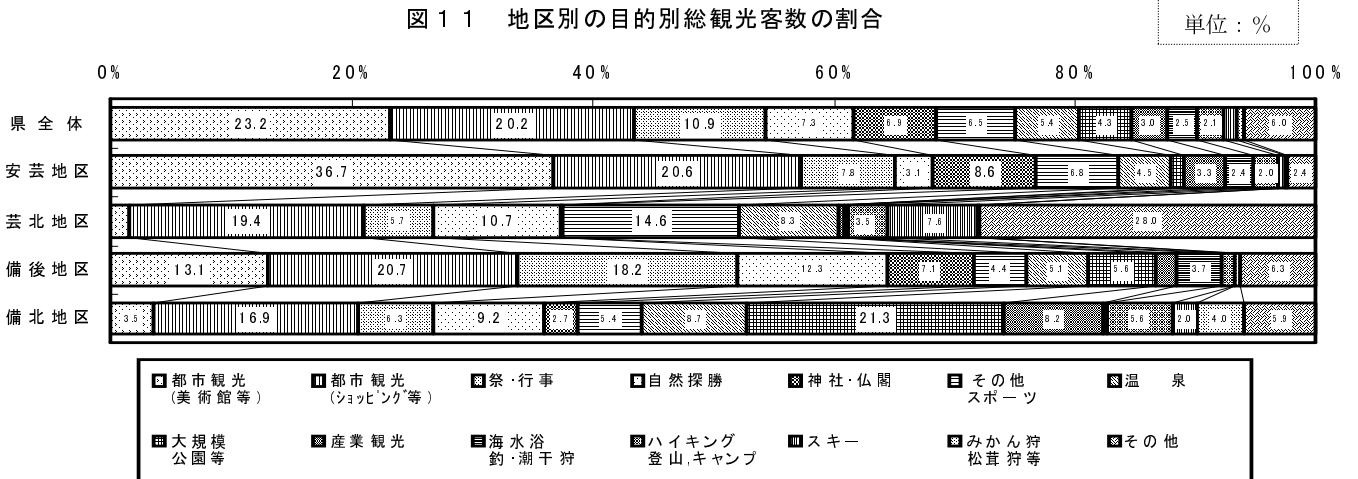
図10 目的別総観光客数の割合



(注) 都市観光：都市を見たり，都市で学ぶことを目的としたもの（美術館等）：美術館，博物館，動・植物園，水族館等（ショッピング等）：非日常の買い物や食事，映画鑑賞等

次に，地区別に目的別観光客の割合を見ると，安芸地区では「都市観光」（57.3%）が圧倒的に多く，芸北地区では「自然探勝」（10.7%）と「温泉」（8.3%），備後地区では「都市観光」（33.8%）と「祭・行事」（18.2%），備北地区では「都市観光」（20.4%）と「大規模公園等」（21.3%）が高い割合となっている。

図11 地区別の目的別総観光客数の割合



(5) 旅行形態別観光客の状況

単位：万人，%

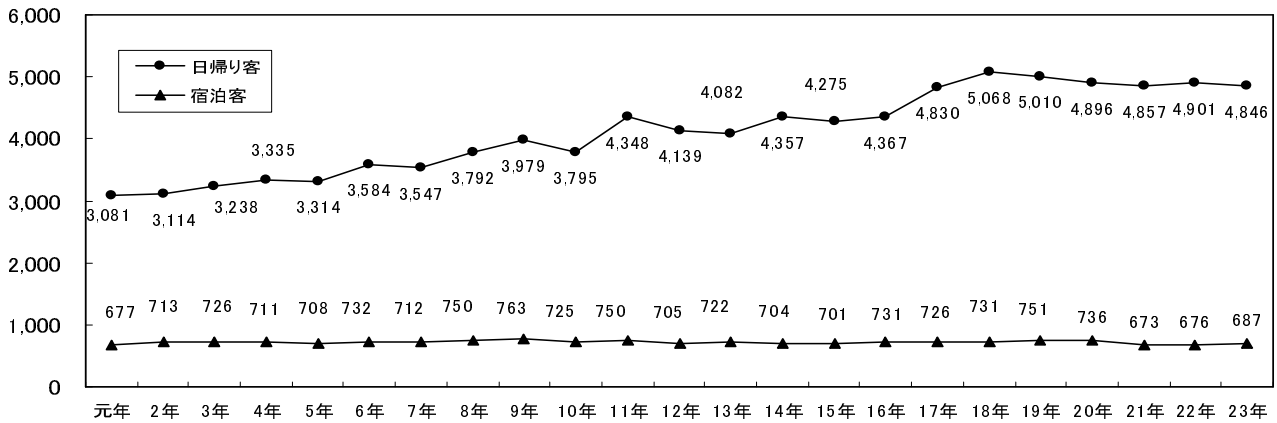
① 日帰り客・宿泊客の状況

区 分	日帰り客		宿 泊 客	
	観光客数	構成比	観光客数	構成比
広島県全体	4,846	87.6	687	12.4
安芸地区	2,291	82.1	500	17.9
芸北地区	419	95.2	21	4.8
備後地区	1,675	93.0	126	7.0
備北地区	461	92.1	40	7.9

本県を訪れる観光客の多くは日帰り客であり、全体の9割近く（87.6%）を占めている。宿泊客は、前年より11万人増加したものの、3年連続で700万人を下回っている。地区別では、安芸地区500万人が県全体の7割以上（72.8%）を占めており、次いで備後地区126万人、備北地区40万人、芸北地区21万人の順になっている。

図12 日帰り客・宿泊客数の推移

単位：万人



② 一般客・団体客・修学旅行者^(注)の状況

単位：万人

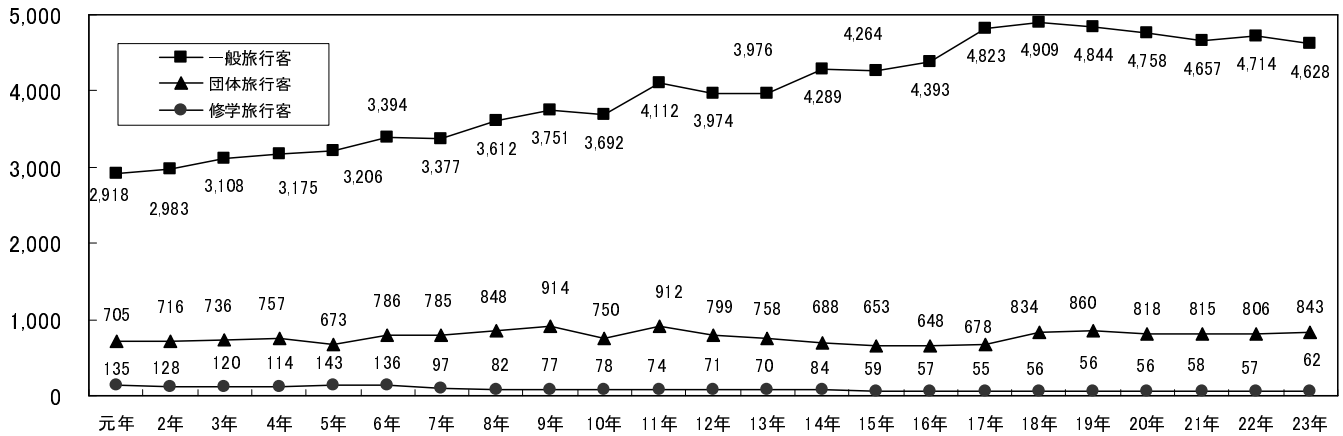
区 分	一般客		団体客		修学旅行者	
	観光客数	構成比	観光客数	構成比	観光客数	構成比
広島県全体	4,628	83.7%	843	15.2%	62	1.1%
安芸地区	2,308	82.7%	428	15.3%	55	2.0%
芸北地区	358	81.3%	82	18.7%	0	0.0%
備後地区	1,553	86.3%	242	13.5%	5	0.3%
備北地区	409	81.7%	90	18.0%	1	0.3%

平成23年は、東日本大震災で直接的な被害を受けた東日本方面からの行き先変更が多かったことから、修学旅行者が前年より4万4千人（7.7%）増加した。

(注) 団体客：10人以上の団体旅行者，一般客：団体客，修学旅行者以外の旅行者

図 1 3 一般客・団体客・修学旅行客数の推移

単位：万人



(6) 交通機関別観光客の状況

観光客の利用交通機関をみると、自家用車を利用したいわゆる「マイカー客」は、高速道路割引の廃止により、前年比97万人減の3,215万人となった。

ついで、鉄道利用者が1,025万人（前年比0.5%増）、バス利用者が608万人（前年比2.7%減）となっている。

図 1 4 交通機関別総観光客の割合

単位：万人

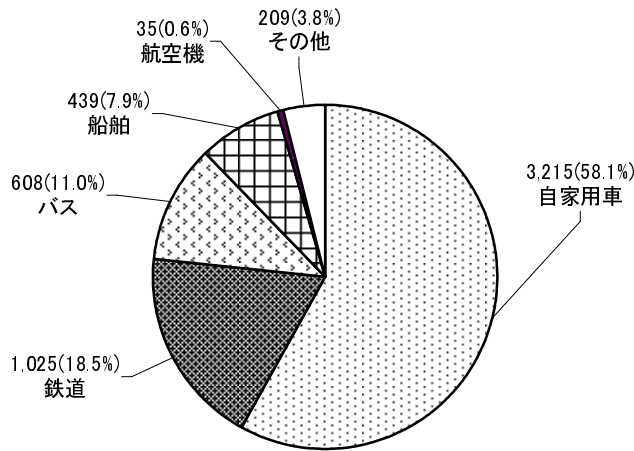
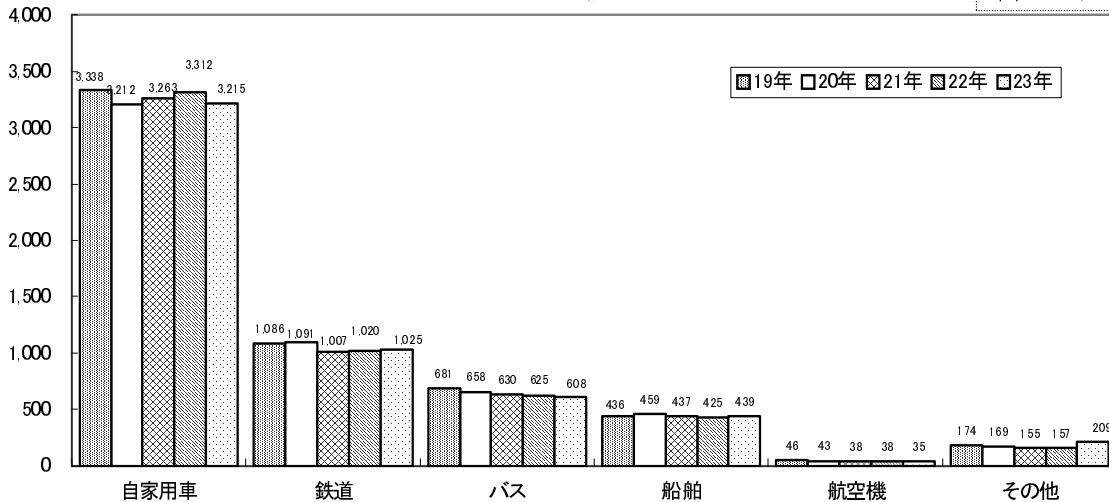


図 1 5 交通機関別総観光客の状況

単位：万人



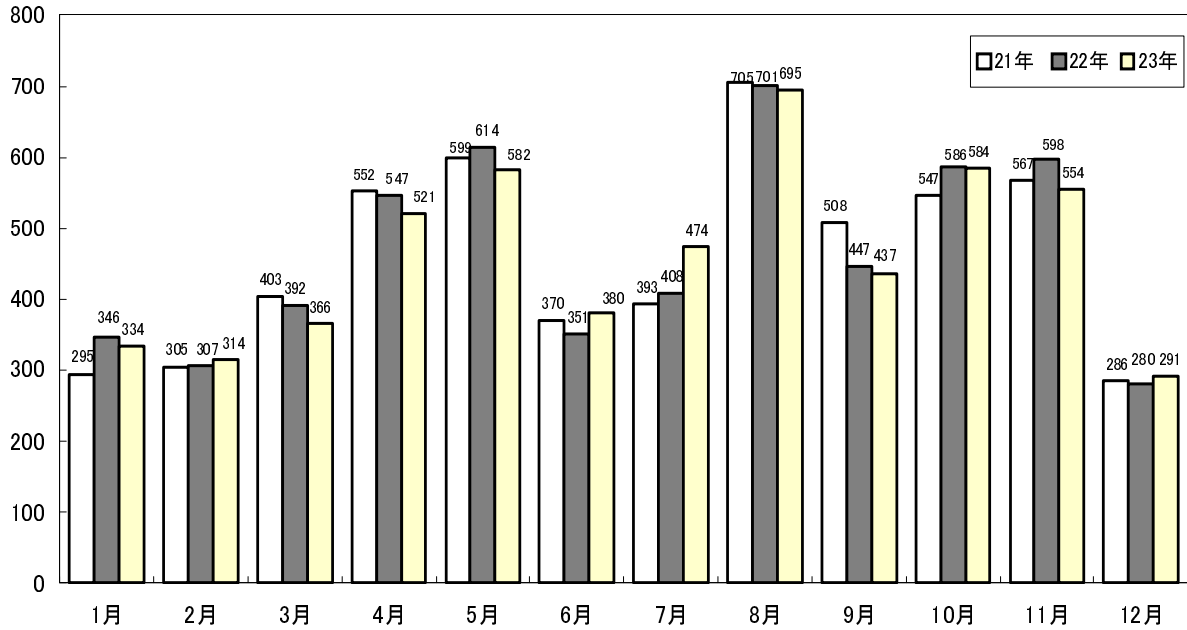
(7) 月別・季節別観光客の状況

① 月別総観光客数の状況

月別に見ると、最も観光客が多かったのは、8月の695万人、次いで10月の584万人、5月の582万人、11月の554万人、4月の521万人となっている。

図16 月別総観光客数の状況

単位：万人

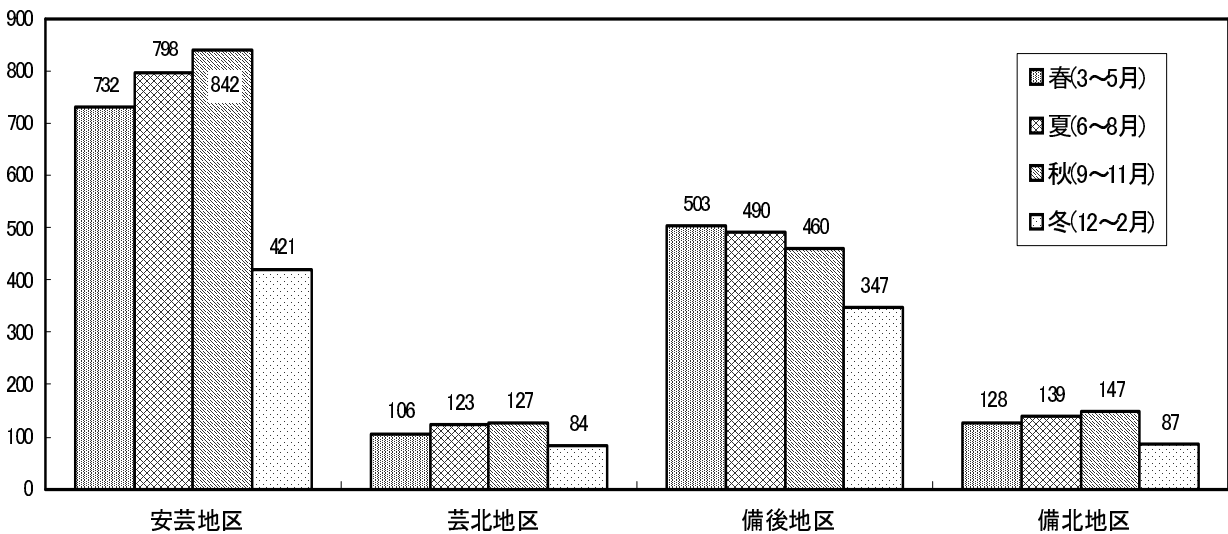


② 地区別・季節別総観光客数の状況

季節別に見ると、安芸地区、芸北地区、備北地区においては、秋に観光客が最も多くなっている。また、備後地区においては春に観光客が多くなっている。

図17 地区別・季節別総観光客数

単位：万人

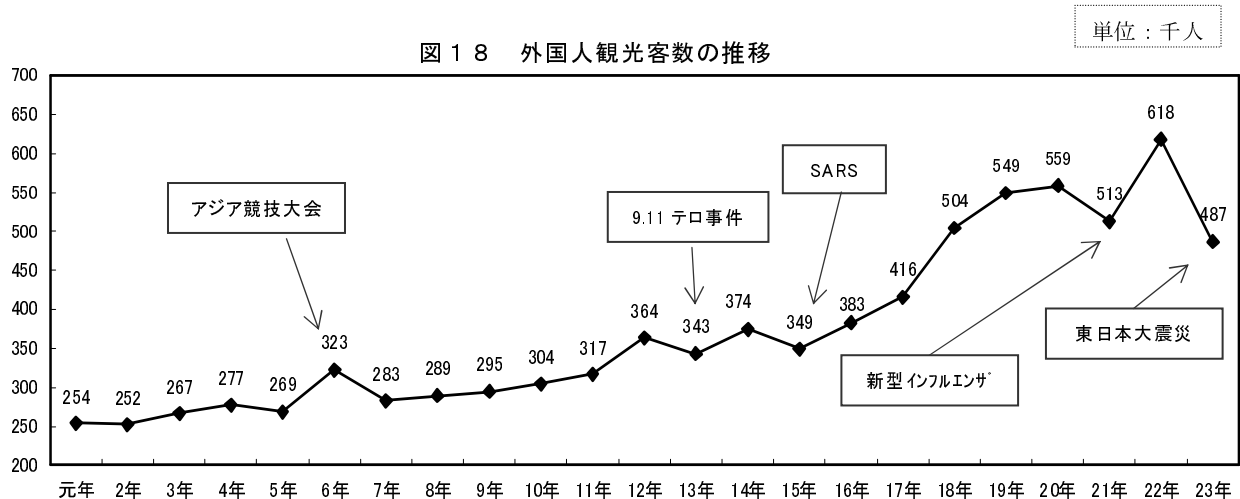


2 外国人観光客の状況

単位：千人，%

区分	平成23年	平成22年	対前年増減	対前年比
外国人観光客数	487	618	▲131	▲21.2

平成23年に本県を訪れた外国人観光客は、前年比131千人（21.2%）減少の487千人であった。これは東日本大震災及び原発事故に伴う風評被害が大きく影響したものと考えられる。

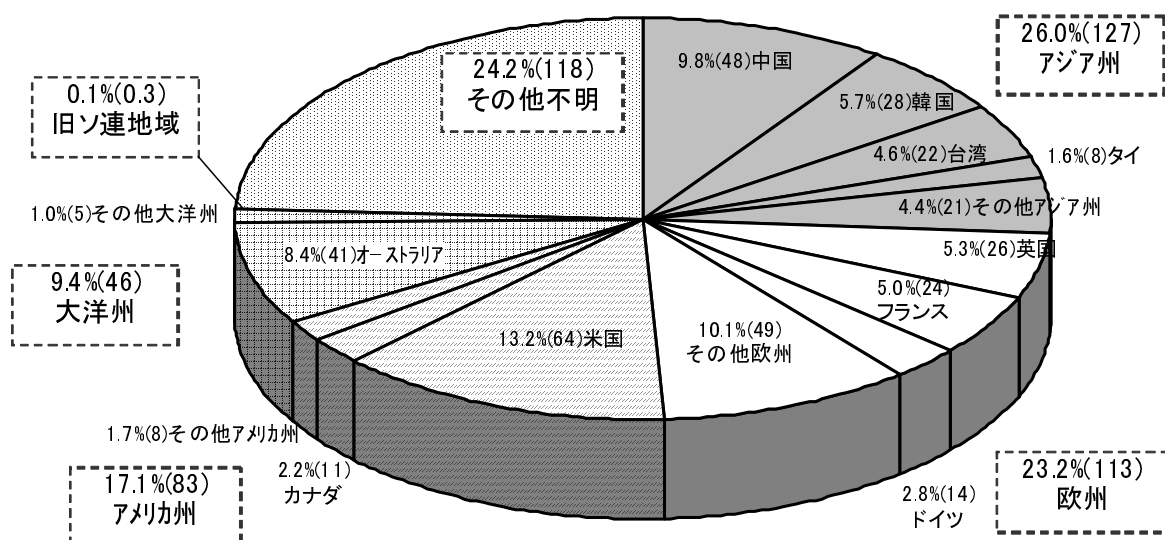


次に、地域別に外国人観光客の割合を見ると、アジアからの観光客が全体の26.0%を占めて最も高く、次いで欧州が23.2%、アメリカ州が17.1%となっている。

なお、国籍別では米国が第1位（13.2%）、第2位が中国（9.8%）、第3位がオーストラリア（8.4%）の順となっている。

図19 国籍・地域別外国人観光客の割合

単位：千人



3 観光客数及び観光消費額の状況

(1) 観光客数の推移

平成23年の総観光客数は5,532万人となり、そのうち入込観光客^(注)は、前年に比べて91万人(2.2%)減少した一方、県外観光客は40万人(1.6%)増加している。

また、地元(市町内)観光客は1,508万人で、前年に比べて46万人(3.1%)増加し、総観光客数に占める割合は27.3%となっている。

(注) 入込観光客：各市町を当該市町の区域外から訪れた観光客

単位：万人，%

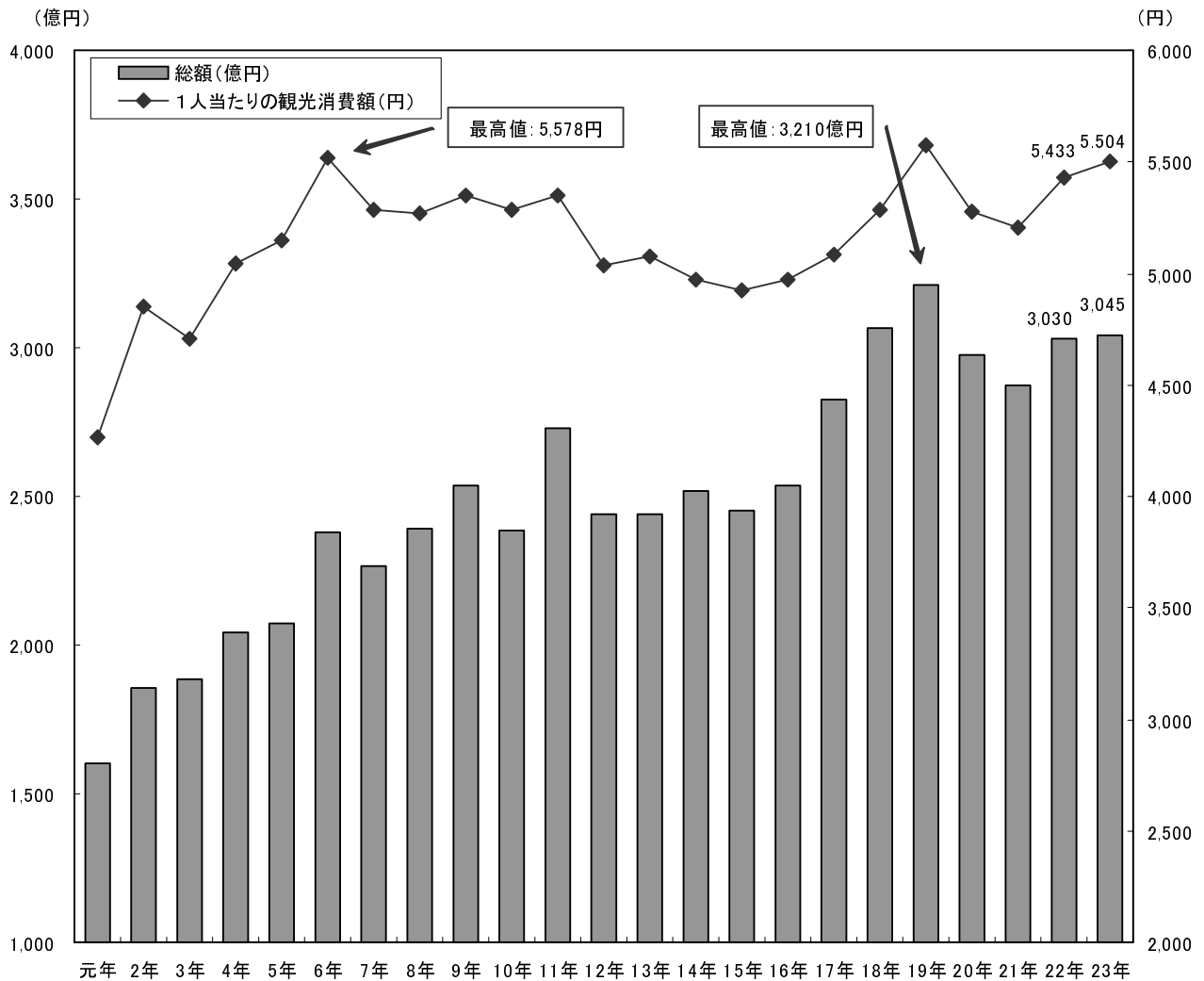
区分	年次	県内観光客			県外観光客 (C)	入込観光客 (B) + (C)	総観光客数 (A)+(B)+(C)
		地元観光客(A)	市町外観光客(B)	計 (A)+(B)			
実 数	元年	656	1,355	2,011	1,747	3,102	3,758
	2年	667	1,387	2,054	1,774	3,161	3,828
	3年	696	1,437	2,133	1,831	3,268	3,964
	4年	711	1,490	2,201	1,845	3,335	4,046
	5年	749	1,456	2,205	1,817	3,273	4,022
	6年	817	1,540	2,357	1,959	3,499	4,316
	7年	836	1,553	2,389	1,870	3,423	4,259
	8年	893	1,651	2,544	1,999	3,650	4,543
	9年	900	1,746	2,646	2,096	3,842	4,742
	10年	898	1,678	2,576	1,944	3,622	4,520
	11年	960	1,788	2,748	2,350	4,138	5,098
	12年	984	1,753	2,737	2,107	3,860	4,844
	13年	1,042	1,747	2,789	2,014	3,761	4,803
	14年	1,126	1,887	3,013	2,048	3,935	5,061
	15年	1,081	1,891	2,972	2,004	3,895	4,976
	16年	1,162	1,885	3,047	2,051	3,936	5,098
	17年	1,212	2,003	3,215	2,341	4,344	5,556
	18年	1,433	1,945	3,378	2,421	4,366	5,799
	19年	1,434	1,968	3,402	2,359	4,327	5,761
	20年	1,415	1,886	3,301	2,331	4,217	5,632
	21年	1,424	1,749	3,173	2,357	4,106	5,530
	22年	1,462	1,690	3,152	2,425	4,115	5,577
	23年	1,508	1,559	3,067	2,465	4,024	5,532
構 成 比	元年	17.5 (32.6)	36.1 (67.4)	53.5 (100)	46.5	82.5	100
	2年	17.4 (32.5)	36.2 (67.5)	53.7 (100)	46.3	82.6	100
	3年	17.6 (32.6)	36.3 (67.4)	53.8 (100)	46.2	82.4	100
	4年	17.6 (32.3)	36.8 (67.7)	54.4 (100)	45.6	82.4	100
	5年	18.6 (34.0)	36.2 (66.0)	54.8 (100)	45.2	81.4	100
	6年	18.9 (34.7)	35.7 (65.3)	54.6 (100)	45.4	81.1	100
	7年	19.6 (35.0)	36.5 (65.0)	56.1 (100)	43.9	80.4	100
	8年	19.7 (35.1)	36.3 (64.9)	56.0 (100)	44.0	80.3	100
	9年	19.0 (34.0)	36.8 (66.0)	55.8 (100)	44.2	81.0	100
	10年	19.9 (34.9)	37.1 (65.1)	57.0 (100)	43.0	80.1	100
	11年	18.8 (34.9)	35.1 (65.1)	53.9 (100)	46.1	81.2	100
	12年	20.3 (36.0)	36.2 (64.0)	56.5 (100)	43.5	79.7	100
	13年	21.7 (37.4)	36.4 (62.6)	58.1 (100)	41.9	78.3	100
	14年	22.2 (37.4)	37.3 (62.6)	59.5 (100)	40.5	77.8	100
	15年	21.7 (36.4)	38.0 (63.6)	59.7 (100)	40.3	78.3	100
	16年	22.8 (38.1)	37.0 (61.9)	59.8 (100)	40.2	77.2	100
	17年	21.8 (37.7)	36.1 (62.3)	57.9 (100)	42.1	78.2	100
	18年	24.7 (42.4)	33.5 (57.6)	58.3 (100)	41.7	75.3	100
	19年	24.9 (42.2)	34.2 (57.8)	59.1 (100)	40.9	75.1	100
	20年	25.1 (42.9)	33.5 (57.1)	58.6 (100)	41.4	74.9	100
	21年	25.8 (44.9)	31.6 (55.1)	57.4 (100)	42.6	74.2	100
	22年	26.2 (46.4)	30.3 (53.6)	56.5 (100)	43.5	73.8	100
	23年	27.3 (49.2)	28.2 (50.8)	55.4 (100)	44.6	72.7	100

(2) 観光消費額の状況

平成23年に、観光客が本県において交通費、宿泊料、みやげ品代、飲食代、入場料などに消費した観光消費額の総額は3,045億円で、前年に比べて15億円(0.5%)の増加となった。

また、観光消費額の総額を総観光客数で除した1人当たりの観光消費額^(注)は、前年より71円(1.3%)増加し、5,504円となっている。

図20 観光消費額の推移



(注) 1人当たり観光消費額＝総観光消費額／総観光客数

なお、観光消費額については、各市町が推計したものの集計